

# 社会福祉法人栗原秀峰会平成 27 年度事業報告

## 【 総 括 】

### 1 多様なニーズに対応した支援サービスの展開

- 利用者一人ひとりの生活状況，行動特性，年齢等を考慮しつつ，本人のニーズや家族の意向に基づいた個別支援計画を作成し，利用者本位のサービス提供に努めた。
- 中長期課題である「利用者の高齢化に伴う支援の在り方」に関するプロジェクトチームにおいて，定期的な会議や外部事業所の視察等を行いながら，課題の解消と将来的な事業の展望に関して検討を進めた。（「総務課事業報告 8 頁」に関連事項を掲載）
- 福祉型障害児入所施設ステップにおける年齢超過児童利用者の対応として，グループホーム，または成人施設への移行準備を進めると同時に，児童と成人が混在するサービス体制上の課題について解消を図るための検討を行った。

### 2 利用者の方々が誇りを持って取り組める生産（日中）活動の提供

- 利用者の能力，意向に応じた作業種目の提供を行うことで，一人ひとりにとっての「やりがい」に繋がる日中活動の提供に努めた。
- 活動内容については，できるだけ細分化することで選択できるメニューを設け，利用者の心身状態や年齢的な衰え等に配慮しながら，自己選択・自己決定に繋がる支援に努めた。
- 新たな取り組み例として，日中活動にミュージックケアや理学療法士による訪問指導を取り入れた結果，利用者の情緒面の安定や身体機能等の改善が見られた。（「ほっとさわべ1ほか事業報告 14 から 15 頁」に関連事項を掲載）

### 3 共同生活援助事業（グループホーム）の新たな支援体制の整備

- 一迫グループホーム検討委員会を中心として事業内容，運営全般等についての協議を重ね，利用者の地域移行を図るための準備を進めた。
- 利用者にとって安心して暮らせる仕組みを改めて検討し，身近で迅速な対応が出来るよう，各障害福祉サービス事業所を拠点とした支援体制を構築するための調整を行った。（「レガート事業報告 20 頁」に関連事項を掲載）

### 4 人権に配慮した支援サービスの提供

- 法人全職員を対象として「障害者虐待防止・権利擁護」に関する研修を実施し，日常の支援において利用者を大切にする視点や姿勢等を学び合いながら，利用者の人権尊重に関わる意識醸成を図った。

- 全事業所において、「苦情・要望」の受付を随時行い対応し、その全てを法人第三者委員会、栗原市等に報告するとともに、法人全体で情報の共有を図りながら再発防止とサービス向上に努めた。

なお、苦情相談は全体として8件、その内の2件は利用者支援に関する内容であった。

## 5 利用者事故に対する対応

- 誤嚥による死亡事故をはじめ、転倒による怪我や誤薬等、利用者支援における事故があった。その都度、法人全体で事故の状況・原因を共有し、利用者優先の体制、行動特性への配慮、職員の安全管理意識等の観点から再発防止策を討議しながら、同様の事故を二度と繰り返さないための組織づくりに努めた。

なお、誤嚥事故の対応例としては、嚥下機能について内部研修しながら、食事提供の在り方について改めて検討したほか、誤嚥対処用の吸引器具の整備や外部の救命救急講習へ参加することで、知識や技術の底上げを図った。（「健康管理課事業報告 12 頁」及び「ほっとさわべ1ほか事業報告 15 頁」に関連事項を掲載）

## 事 務 局

### 【法人運営】

#### 1 理事会

開催日	内 容
H27. 5. 26	<p>第1回（出席者：理事6名/6名，監事2名/2名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 平成26年度事業報告について</p> <p>議案第2号 平成26年度決算報告について</p> <p>議案第3号 一迫グループホーム新築工事に係る施行（案）について</p> <p>議案第4号 一迫グループホーム新築工事に係る工事施工監理業務委託（案）について</p> <p>議案第5号 交流管理棟電話設備更新工事等に係る施行（案）について</p> <p>議案第6号 平成27年度補正予算（案）について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 理事長の事務の専決について</p> <p>2 一迫グループホーム新築工事設計業務委託の完了について</p>
H27. 9. 3	<p>第2回（出席者：理事6名/6名※うち書面参加1名，監事1名/2名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 定款変更について</p> <p>議案第2号 一迫グループホーム新築工事に係る入札の落札者の決定並びに工事請負契約の締結について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 理事長の事務の専決について</p> <p>2 平成27年度 社会福祉施設等施設整備事業費補助金の内示について</p> <p>○その他</p> <p>・平成27年度事業計画の進捗状況について</p>
H27. 10. 15	<p>第3回（出席者：理事5名/6名，監事2名/2名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 （仮称）一迫グループホーム新築に伴う外構工事の施行（案）について</p>
H27. 11. 27	<p>第4回（出席者：理事6名/6名，監事2名/2名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 理事の選任結果の同意について</p> <p>議案第2号 評議員の選任について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 利用者支援における事故について</p> <p>2 （仮称）一迫グループホーム新築に伴う外構工事請負契約の締結に</p>

	<p>ついて</p> <p>3 職員の表彰について</p> <p>○その他</p> <p>1 役員並びに評議員研修会について</p>
H27. 11. 27	<p>第5回（出席者：理事6名/6名，監事2名/2名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 理事長の選任について</p> <p>議案第2号 常務理事の指名の同意について</p> <p>議案第3号 理事長職務代理者の指名の同意について</p>
H28. 3. 24	<p>第6回（出席者：理事6名/6名，監事2名/2名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 定款変更（案）及び諸規程の一部改正等（案）について</p> <p>議案第2号 平成27年度補正予算（案）について</p> <p>議案第3号 平成28年度事業計画（案）について</p> <p>議案第4号 平成28年度当初予算（案）について</p> <p>議案第5号 主要職員の任免について</p> <p>議案第6号 第三者委員会委員の選任に関する同意について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 理事長の事務の専決について</p> <p>2 平成27年度宮城県・栗原市指導監査結果について</p>

## 2 評議員会

開催日	内 容
H27. 5. 26	<p>第1回（出席者：評議員13名/13名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 平成26年度事業報告について</p> <p>議案第2号 平成26年度決算報告について</p> <p>議案第3号 一迫グループホーム新築工事に係る施行（案）について</p> <p>議案第4号 一迫グループホーム新築工事に係る工事施工監理業務委託（案）について</p> <p>議案第5号 交流管理棟電話設備更新工事等に係る施行（案）について</p> <p>議案第6号 平成27年度補正予算（案）について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 理事長の事務の専決について</p> <p>2 一迫グループホーム新築工事設計業務委託の完了について</p>
H27. 9. 3	<p>第2回（出席者：評議員13名/13名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第1号 定款変更について</p>

	<p>議案第 2 号 一迫グループホーム新築工事に係る入札の落札者の決定並びに工事請負契約の締結について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 理事長の事務の専決について</p> <p>2 平成 27 年度 社会福祉施設等施設整備事業費補助金の内示について</p> <p>○その他</p> <p>・平成 27 年度事業計画の進捗状況について</p>
H27. 10. 15	<p>第 3 回（出席者：評議員 12 名/13 名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第 1 号 （仮称）一迫グループホーム新築に伴う外構工事の施行（案）について</p>
H27. 11. 27	<p>第 4 回（出席者：評議員 12 名/13 名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第 1 号 理事の選任について</p> <p>議案第 2 号 監事の選任について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 利用者支援における事故について</p> <p>2 （仮称）一迫グループホーム新築に伴う外構工事請負契約の締結について</p> <p>3 職員の表彰について</p> <p>○その他</p> <p>1 役員並びに評議員研修会について</p>
H28. 3. 24	<p>第 5 回（出席者：評議員 13 名/13 名）</p> <p>○審議事項</p> <p>議案第 1 号 定款変更（案）及び諸規程の一部改正等（案）について</p> <p>議案第 2 号 平成 27 年度補正予算（案）について</p> <p>議案第 3 号 平成 28 年度事業計画（案）について</p> <p>議案第 4 号 平成 28 年度当初予算（案）について</p> <p>議案第 5 号 主要職員の任免について</p> <p>○報告事項</p> <p>1 理事長の事務の専決について</p> <p>2 平成 27 年度宮城県・栗原市指導監査結果について</p>

### 3 監事による監査

開催日	項 目	監査員
H27. 5. 18	<p>平成 26 年度事業報告について</p> <p>平成 26 年度決算報告について</p> <p>理事の業務の執行状況について</p>	<p>白鳥監事</p> <p>千田監事</p>

#### 4 一迫グループホームの建設

入所施設利用待機者及び障害児入所施設に係る年齢超過児の解消を図るため、平成27年度社会福祉施設等施設整備事業費補助金を活用し、一迫真坂地区にグループホーム2棟と倉庫等を新たに建設した。

##### ◎ 工事

###### (1) 本体工事

- ① 工事名 一迫グループホーム新築工事（ホーム2棟，倉庫1棟，物干2棟）
- ② 請負者 大和リース㈱仙台支店 支店長 泉 和彦  
仙台市太白区大野田字観音堂 48-1
- ③ 契約金額 95,904,000 円
- ④ 工期 平成27年9月12日から平成28年3月3日まで

###### (2) 外構工事

- ① 工事名 (仮称) 一迫グループホーム外構工事
- ② 請負者 大和リース㈱仙台支店 支店長 泉 和彦  
仙台市太白区大野田字観音堂 48-1
- ③ 契約金額 12,528,000 円
- ④ 工期 平成27年10月21日から平成28年3月17日まで

###### (3) 工事施工監理業務委託

- ① 業務名 一迫グループホーム新築工事施工監理業務委託
- ② 請負者 (有)山本セメント一級建築士事務所 代表取締役 山本 富士男  
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-115
- ③ 契約金額 1,944,000 円
- ④ 工期 平成27年8月3日から平成28年3月18日まで

##### ◎ 補助金

- (1) 平成27年度宮城県社会福祉施設等施設整備事業費補助金 46,602,000 円

#### 5 役員並びに評議員研修会

社会福祉法人大崎誠心会との共催事業として実施し、役員、評議員のほか、幹部職員も参加した。

- と き 平成28年1月29日（金）午前10時から正午まで
- と ころ 大崎市田尻「スキップセンター」
- 出席者 理事4名，監事1名，評議員5名，職員9名 計19名
- 研修内容 『社会福祉法人制度の見直しについて』
- 講 師 公益社団法人日本知的障害者福祉協会 事務局長 末吉孝徳 氏

## 【総務課】

### 1 人事・労務

#### (1) 職員の状況

平成27年度中は11名の職員を採用し、3月31日現在103名の職員が在籍しており、その内訳は下記のとおりとなっている。

勤務形態別 事業所等名	常勤 (人)	非常勤 (人)	計 (人)	うちH28.3.31付 退職者(人)
法人本部	13	5	18	2
入所支援部	34	15	49	3
障害福祉サービス部	21	15	36	4
計	68	35	103	9

#### (2) 労務調査及び内部監査

- ・調査(監査)員 事務局長 佐藤宗幸
- ・実施期間 H27.7.2～H27.9.14
- ・対象 8事業所・2課、職員99名に対し、面談による労務調査を実施した。

#### (3) 人事・給与管理システムの導入

人事・給与管理のシステムを導入することにより、事務の効率化を図るとともに、マイナンバー制度の施行に伴う法人内の情報管理に対応することが可能となった。

### 2 福利厚生

職員が心身ともに、充実して働くことができる環境づくりに努めた。

#### (1) スポーツ観戦と交流事業費への助成

実施月日	事業名	内容
4月～10月	スポーツ観戦事業	野球・サッカー観戦
H27.12.18.	親睦交流促進事業	親睦交流会の開催

#### (2) 職員の健診等の状況

##### ○法定検診

検診項目	実施回数 (回)	受診者数 (人)	再検査者 数(人)	受診者数に占 める再検査者 数の割合(%)
総合健診(定期健康診断)	1	75	24	32
夜間従事者検診	1	23	0	0
給食従事者の検便	12	1,080	1	0.09
腰椎検査	1	88	6	6.8

○法定外検診

検診項目	実施回数 (回)	受診者数 (人)	再検査者 数(人)	受診者数に占 める再検査者 数の割合(%)
レディース検診	1	26	1	3.8
夜間従事者検診(法定対 象職員以外)	1	23	0	0
日帰り人間ドック	1	3	0	0
インフルエンザ予防接種	1	55	—	—

○法定外検診等への助成

検診等の項目	対象職員数 (人)	助成金額 (円)
インフルエンザ予防接種	55	107,600
市町村で受診する各種検診 (乳がん・子宮がん検診等)	4	13,400

3 研修・教育

(1) 資格取得費助成制度・特別研修事業の実施

職員のスキルアップと利用者支援向上を図るため、各助成を行った。

①資格取得費助成制度

種 類	資格取得者 (人)
知的障害援助専門員	2
中型自動車(8 t 限定解除)	3
社会福祉主事	1

②特別研修事業

実施年月日	研修先	参加人数 (人)
H27. 10. 16. ~27. 10. 25.	イタリア	1

(2) プロジェクトチームの開催

利用者の高齢化に伴う支援の在り方を検討するため、中堅職員で構成されたプロジェクトチームにおいて、前年度に引き続き検討を行った。

○検 討 期 間 通年(概ね毎月1回の検討会を開催)

○主な検討内容

- ・将来的な年齢分析と課題の洗い出し
- ・支援上の工夫の検討
- ・共生型グループホーム等の視察及び情報収集
- ・介護保険サービス等の事業化の検討 ほか

(3) 研修会の参加 (法人全体の実施状況として、「V 資料 35～38 頁」に掲載)

(4) 職員に係る講師派遣状況

研修会等名	実施機関	人数 (人)
自閉症研修連続講座	宮城県知的障害者福祉協会	2

#### 4 会議・委員会

(1) 会議

次により会議を開催し、事業運営上の課題共有や対応の検討を行った。

No.	会議名称	主な内容	開催回数 (回)
1	幹部会議	法人全体の運営に関することについて	23
2	所長会議	中長期事業の構想、人材育成等、特に事業所間で共有すべき事項について	8
3	入所支援部会議	施設入所利用者に係る健康・安全対策、個別支援、伝達研修等について	8
4	障害福祉サービス部 会議	就労支援事業、利用率の分析・改善に関すること等について	10
5	自閉症研究会議	自閉症、強度行動障害のある利用者の個別対応、支援者の勉強会等について	10
6	サービス管理責任者 会議	個別支援計画の共有、担当者の支援スキルの向上等について	4

(2) 委員会の開催

①関係法令に基づく委員会

No.	名 称	主な内容	開催回数 (回)
1	衛生委員会	職場巡視報告と改善策の協議、福利厚生アンケートの実施等について	9
2	虐待防止対応委員会	セルフチェックの実施とまとめ、虐待防止研修会開催等について	14
3	権利擁護委員会	職員行動規範・倫理綱領の見直し、虐待防止研修会開催等について	5
4	苦情解決委員会 (第三者委員会)	苦情要望の受付、対応方法の検証等について (第三者委員会へ報告しながら意見や助言を得た。)	8
5	サービス評価委員会	利用者主体の質の高いサービス提供のためのサービス評価・検証等について	3

## ②その他の委員会

No.	名 称	主な内容	開催回数 (回)
1	広報委員会	広報紙「栗原秀峰会通信」第33号, 第34号の内容の検討・編集等について	2
2	防災委員会	非常配備計画の見直し, 参集通信訓練等について	10

## 5 財 務

### (1) 外部機関による会計相談の実施 (1回/年)

車田正光公認会計士事務所

代表 車田正光 氏 (仙台市青葉区通町二丁目1-14)

年月日	相 談 内 容
H27.5.11	平成27年度決算に係る財務諸表の精査

### (2) 積立資産の計画的な積立

各積立資産における積立目標額を設定し, 計画的に積み立てた。

## 6 防災訓練等の実施状況

非常連絡用タブレット端末を導入することで, 職員への一斉連絡が可能となり, その運用訓練を実施した。

なお, 平成27年9月10日(木)からの台風18号による大雨等の災害時には, 各事業所の被害状況, 利用者・職員の安否確認, 当日の事業運営に係る協議と関係者への連絡を行い, 公用車1台に被害があったものの, 緊急時ながら冷静に対応することができた。

## 7 法人の経営情報の公開

財務諸表等の公表を行うことが義務化されたことに伴い, 広報紙及びホームページを活用し, 情報公開を行った。

### (1) 広報紙「栗原秀峰会通信」の発行

① 発行回数: 年2回

② 発行部数: 計890部

### (2) ホームページの運営

① 施設・事業所の紹介等

② 事業計画及び事業報告, 決算諸表等の情報公開

## 8 ボランティアの受け入れ

ボランティア等を積極的に受け入れ、地域に開放された施設づくりに取り組んだ。

内 容	開催回数 (回/年)	備 考
天理教県北青年部施設環境整備 ボランティア	1	(本体入所施設)
すぎなの会余暇支援ボランティア	3	(本体入所施設)
健康体操ボランティア	12	(すぶりんぐ)
本読みボランティア	12	(すぶりんぐ)
創作活動等ボランティア	48	(すぶりんぐ)
縫製ボランティア	随時	(すぶりんぐ)
レクダンスボランティア	2	(くりこま「ゆめ工房」)
フラダンス交流会ボランティア	1	(くりこま「ゆめ工房」)

(各事業所におけるボランティアの受け入れについては、次ページ以降に再掲している。)

## 9 施設見学受入状況

見学希望者(団体)等に対し、各施設における取り組みを紹介しながら、地域における障害者理解に努めた。

見学者(団体)名	人数(人)	備 考
梨崎・下沢辺地区ボランティア	25	本体(入所)施設・パン工房いそっぷ・すぶりんぐ・くりこま「ゆめ工房」
築館地区民生委員児童委員協議会	12	本体(入所)施設
一迫地区ボランティア連絡協議会	15	(パン工房いそっぷ)
秋田県東山学園(保護者)	13	(すぶりんぐ・くりこま「ゆめ工房」)
栗原市内中学校教諭	35	(パン工房いそっぷ)
宮城県北部保健福祉事務所 栗原地域事務所	18	(パン工房いそっぷ・すぶりんぐ)
花巻ふれあいの里福祉会	25	本体(入所)施設
宮城県啓佑学園	10	本体(入所)施設
みんなの輪(わ・は・わ)	2	本体(入所)施設・大林
栗原市立一迫小学校	20	(パン工房いそっぷ)
ワークショップひまわり	3	(パン工房いそっぷ)
計	178	

(各事業所における施設見学については、次ページ以降に再掲している。)

## 【健康管理課】

### 1 看護関係

#### (1) 利用者の高齢化に伴う健康管理の強化

- ① 疾病の早期治療につなげるため、日々の健康チェックを実施した。
- ② 個人の運動機能に合せた軽運動を実施した。
- ③ 口腔ケア及び嚥下予防対策のため、ブラッシング指導、嚥下体操を行った。

#### (2) 緊急時対応の周知徹底

施設入所者の死亡事故を受けて、入所支援部と連携しながら吸引器具の使用方法や誤嚥予防についての勉強会を実施し、緊急時の対応を再確認した。

#### (3) 利用者の健診

健診項目		実施回数 (回)	受診者数 (人)	再検者数 (人)	受診者数に占める 再検者数の割合(%)
総合健診	8月	1	70	12	17.1
	2月	1	70	11	15.7
耳鼻科検診		1	70	4	5.7
歯科検診		1	70	7	10
前立腺がん検診		1	7	0	0
大腸がん検診		1	54	1	1.8
胃がん検診		1	8	0	0
検便		1	70	0	0
レディース健診		1	8	0	0

#### (4) 定期通院状況 (延人数・単位：人)

場 所	ステップ	ほっとさわべ1	ほっとさわべ2	レガート	計
栗原市内	55	160	390	120	725
栗原市外	52	252	168	48	520
県 外	0	6	9	0	15
計	107	418	567	168	1,260

### 2 給食関係

#### (1) 利用者の高齢化に伴う食事提供・栄養管理

- ① 健康状態（疾病等）に対応した食事提供を行った。また、季節を感じる行事食の提供や「嗜好調査」を実施し、希望に沿った食事の提供に努めた。

	行事名	提供メニュー
4月	お花見会	お花見弁当
10月	ふれあいまつり(家族会合同)	アメリカンドッグ、豚汁、焼きそば等
12月	クリスマス会	クリスマスメニュー

2月	節分	恵方巻き
3月	ひな祭り	ちらし寿司
随時	誕生日会・リフレッシュ会食	希望メニュー
毎月1回 平日昼食	パンの日	パン (いそつぶ・すぷりんぐ製造品)
	カレーの日	カレーライス
	デザートの日	プリン, クレープ, ケーキ等

② 誤嚥, 誤飲予防対策に努め, 食べやすい食事形態での提供に取り組んだ。

食 種	朝・夕食(食)	昼食(食)	計(食)
普通食	61	128	189
きざみ(部分)	0	22	22
きざみ(全部)	9	15	24
ミキサー食	0	0	0
代替食	22	31	53
計	92	196	288

(2) 衛生管理の徹底

項 目	実施回数(回)	内 容
調理従事者衛生チェック	毎日(365日)	爪・傷・体調チェック
作業環境・調理器具の点検	3回/月	大型調理器具の点検等
腸内細菌検査	1回/月	O-157, サルモネラ, 赤痢
害虫点検, 防除	6回/年	厨房, 居住棟内の防虫検査

(3) 危機管理対策

① 防災備蓄食料品の備蓄と更新

水 500ml入りペットボトル 100本更新

**障害者支援施設ほっとさわべ1・福祉型障害児入所施設ステップ  
障害者支援施設ほっとさわべ2**

1 事業所概要

(1) 所在地 栗原市金成梨崎道ノ上7番地の1

(2) 実施事業

① 入所支援 (平成28年3月末現在)

事業所名	定員 (人)	現員 (人)	短期入所定員 (人)
施設入所支援ほっとさわべ1	30	30	3
福祉型障害児入所施設ステップ	10	10	1
施設入所支援ほっとさわべ2	30	30	3

② 日中活動支援 (平成28年3月末現在)

事業所名	区分	定員 (人)	現員 (人)
	単位Ⅱ	20	16
生活介護事業所ほっとさわべ2		30	30
	従たる事業所	6	6

2 利用者状況

(1) 年齢の状況 (単位：人)

事業所名	～	20～	30～	40～	50～	60～	70歳	合計	平均年齢 (歳)
	19歳	29歳	39歳	49歳	59歳	69歳	～		
ほっとさわべ1	0	0	8	15	5	1	1	30	45.8
ステップ	2	7	1	0	0	0	0	10	25.0
ほっとさわべ2	0	5	6	1	8	5	5	30	51.5

(2) 障害支援区分 (単位：人)

事業所名	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	措置	合計	平均区分
ほっとさわべ1	0	0	0	7	8	15		30	5.2
ステップ	0	0	0	3	3	2	2	10	4.8
ほっとさわべ2	0	0	8	17	5	0		30	3.9

3 重点的な取組み

(1) 支援サービスの質の向上

運動機能や感覚機能の改善を目的として、専門講師によるミュージック・ケアや理学療法士による訪問指導を新たに実施した。特に理学療法士の導入においては、利用者の身体状況の把握、身体機能の維持及び低下予防に繋がり、個別支援計画に

基づく活動メニューの幅が広がった。また、利用者一人ひとりに合わせた活動が出来るよう、日中活動グループの再編を行い、少人数単位での活動を実施した。

(2) 地域生活への移行準備

利用者及び家族に地域生活移行に向けた意向を聴取し、併せてグループホームの見学を行うことで将来の生活についてイメージする機会を設けた。家族や関係機関、レガート等と連携を図りながら、特に9名の利用者の地域移行について検討した。

(3) 児童施設年齢超過児の対応

年齢超過児童の在所期間延長措置の廃止に対応する為、利用者、保護者への説明を実施し、行政機関と連携を図りながらそれぞれの生活移行の準備を進めた。

(4) 緊急時対応の周知徹底

利用者の死亡事故を重く受けとめ、健康管理課と連携しながら勉強会を実施し、利用者の誤嚥予防に関する知識や支援上の意識等について職員間で再確認したほか、吸引器具の使用方法についての内部講習を実施し、併せて外部の救命救急講習会へも参加した。

## 4 活動状況

(1) ほっとさわべ1

① 自閉症研究（工房ふくろう）係

自閉症利用者を対象とし、利用者一人ひとりの特性に配慮した空間の中で、視覚と聴覚の情報を整理統合し、分かり易い環境設定を行った。活動内容としては、ごみ袋の加工作業や自立課題（ペグさし・ラベルの仕分け・ビーズの色分け等）を個々の特性に応じて提供した。

② 機能訓練活動

自然散策や季節ごとの行事、外出訓練等を計画し適宜に実施した。また、集団で活動することが難しい方については、できる限り少人数単位での活動を提供し、専門講師によるミュージック・ケアや理学療法士による訪問指導を受けながら、利用者一人ひとりに合わせたメニューを組み立てた。

結果、ミュージック・ケアでは情緒面の落ち着きが見られ、理学療法においては、例えば常時車椅子生活だった利用者の歩行器による立位移動、また利用者によっては関節可動域の広がりや歩行動作の安定等に効果が見られた。

③ 創作活動

手工芸を中心に利用者一人ひとりの創作的活動を支援した。高齢の利用者には、活動時間を短縮する等により無理なく参加できるメニューを設定しながら、生きがいを持つ活動の提供を行なった。

(2) ステップ

金成支援学校生徒1名については、主に通学指導や将来に向けた生活支援を行った。また、進路指導においては、学校卒業後の進路について、支援学校、行政機関と連携を図りながら進路支援会議を実施し、一般企業での体験実習を実施した。

既に学校を卒業している利用者については、本人及び家族、行政機関等と随時調

整を図りながら、今後、成人としての生活・活動へ参画していくために必要な支援を行った。

(3) ほっとさわべ2

① 大林活動訓練係

栗原市指定のごみ袋，事業系ごみ袋，受託ゴミ袋の加工作業を行った。年間を通して一定の作業量を確保し，利用者の働く意欲と達成感の高揚に繋がった。

② 農業（たてやま）対応訓練係

イ 農園芸事業

季節に合わせた野菜（じゃがいも・ほうれん草・たまねぎ等）の栽培を行い，各グループホーム，宮城県栗原合同庁舎内食堂「やまぼうし」へ販売した。

収穫や出荷等を通して，身近な人たちに提供できることが励みとなり，活動意欲の向上に繋がった。

ロ リサイクル事業

受託事業として，年間を通して安定的な作業量を確保できた。しかしながら分解作業，種分け等は緻密な作業でもあり，利用者の携われる作業が徐々に限られ，一定量の出荷が困難となった。委託先との協議を行った結果，年度末をもってリサイクル事業は終了となり，今後については農園芸事業への一本化を図り，その中で種々の活動メニューを提供していくこととしている。

③ 食堂（やまぼうし）対応訓練係

食堂利用者の目標としていた，1日平均50～60名を確保することができた。

利用者は各自の分担，役割をスムーズにこなし，パターン化したものについては自分で判断し行動できるようになった。働く意欲は高いモチベーションと接客態度に効果が表れ，来店される方々から好印象を持たれ，また，域定着にも繋がっている。

5 主な行事

4月	お花見会
5月	春の一時帰省，ボウリング外出，障害者スポーツ大会，温泉外出，金成支援学校運動会応援外出
6月	障害者スポーツ大会，カラオケ外出，ひまわり植栽，七夕昼食会，船下り外出，仙台買い物外出，館ヶ森アーク牧場外出
7月	あすなる会外出，平筒沼ふれあい公園散策外出
8月	夏の一時帰省，花火大会，温泉外出，松風会夏祭り招待
9月	とっておきの音楽祭 IN くりはら参加，ひまわり旅行
10月	ふれあいまつり，ひまわり旅行，なごみの里サポートセンター祭り招待
11月	金成福祉まつり参加，金成支援学校祭見学，ひまわり旅行，映画鑑賞
12月	クリスマス会，忘年会（家族会共催），冬の一時帰省

1月	あすなる会成人を祝う会参加	
2月	節分昼食会，金成支援学校高等部を祝う会参加	
3月	ひな祭り会，送別会，壮行会	
通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日帰り</li> <li>・一泊旅行</li> <li>・誕生会希望メニュー会食</li> <li>・誕生日希望外出 等</li> </ul>	} 全10コースより選択

## 6 短期入所

在宅の福祉ニーズに応じて，短期入所支援を行った。

事業所名	実人員（人）	延べ人数（人）
施設入所支援 ほっとさわべ1	15	629
福祉型障害児入所施設 ステップ	3	144
施設入所支援 ほっとさわべ2	13	744

## 7 日中一時支援

主に支援学校等の下校後及び休日，祝日において受入れ，日中一時支援を行った。

事業所名	実人員（人）	延べ人数（人）
施設入所支援 ほっとさわべ1	7	453
福祉型障害児入所施設 ステップ	7	456
施設入所支援 ほっとさわべ2	7	26

## 8 実習生の受け入れ

保育士養成の為の指定受け入れ施設として，保育士を目指す県内外の大学，専門学校等の学生を次のとおり受け入れ，実習指導を行った。

No.	学 校 名	人数（人）	延べ日数（日）
1	東北福祉大学	1	10
2	宮城学院女子大学	1	10
3	尚絅学院大学	2	20
4	聖和学園短期大学	2	20
5	宮城誠真短期大学	4	40
6	修紅短期大学	4	40
7	仙台青葉学院専門学校	1	10
8	仙台こども専門学校	4	40
合 計		19	190

## 9 会 議

次により会議を開催し、事業運営上の課題や利用者の対応等に関して調整を図った。

会 議 名 称	内 容	開催数 (回)
職員会議	入所支援における課題共有・解決に関すること	8
強度行動障害検討会議	強度行動障害利用者の対応等に関すること	10
個別支援会議	利用者の個別支援計画及び見直しに関すること	140
居住棟会議	利用者の生活状況変化等に関する情報共有等	22

## 10 防災訓練等の実施状況

非常災害に備えた体制を整備するため、防災訓練を実施した。また、消防法等関係及び消防計画に基づく安全点検等を定期的に行った。

- |              |       |
|--------------|-------|
| ① 総合訓練       | 1回/年  |
| ② 部分訓練       | 11回/年 |
| ③ 消防設備点検（業者） | 2回/年  |
| ④ 消防設備点検（自主） | 毎日実施  |

## グループホーム支援センター レポート

### 1 事業所概要

- (1) 所在地 栗原市金成大林寺沢 3-3 コーポ葉月 2-C  
 (2) 実施事業 共同生活援助（介護サービス包括型）事業

(平成 28 年 3 月末現在)

グループホーム住居名	地 区	利用定員(人)	現員(人)
さわべホーム	金 成	5	5
アンダンテ		5	5
青 空		5	5
ビリーブ		4	4
スイートピー	栗 駒	4	4
田園ホーム	若 柳	5	5
もとまっち	一 迫	7	7
合 計		35	35

※平成 28 年 3 月末現在

### 2 利用者状況

- (1) 年齢別利用者数 (単位：人)

～ 19歳	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70歳 ～	合計	平均年齢 (歳)
0	1	6	11	6	8	3	35	50.5

- (2) 障害支援区分 (単位：人)

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計	平均区分
1	7	16	9	2	0	35	3.0

### 3 重点的な取組み

- (1) 一迫グループホームの創設へ向けた準備

一迫グループホーム検討委員会における各検討事項の調整を担い、一迫真坂地区に2棟のグループホームを創設し、利用者の地域移行を進めるための準備を行った。  
 (主な検討内容については、「V 資料 39～40 頁」に掲載)

- (2) 健康管理の強化

- ① 個々の定期通院や住民健診の他、皮膚疾患や虫歯予防においても定期的な受診を行い、細部の健康管理に重点を置いた。
- ② 利用者の心身の健康状態等について、担当者間で情報共有や連携を図ることにより、疾病等の早期発見・早期治療に努めた。住民健診で再検査の結果が出た利用者については、家庭との連絡調整により通院によるフォローを適宜に行った。

### (3) 支援体制の整備へ向けた検討

- ① 所管事務所の限られた人員でグループホーム全体をフォローするには支援の範囲が広くなりつつある状況を踏まえ、定員規模の拡大やニーズの多様化等に対応するための検討に着手した。
- ② 入所施設等から新たに地域移行する利用者及び家族のほか、地域住民等からの要望に対応するため、夜間支援の強化について検討した。
- ③ 世話人等の人材確保と今後の望ましい身分保障の在り方について検討した。

## 4 就労等の状況

### (1) 一般就労

企業名	人数(人)	就労内容
迫トラック株式会社	1	環境整備, 荷物の運搬等
農事組合法人 水鳥	2	しいたけ栽培
合計	3	

### (2) 障害福祉サービス等

事業所名	人数(人)	作業内容
ほっとさわべ2	11	ごみ袋の袋詰め加工
	1	野菜の栽培等の農作業
〃 従たる事業所	2	食堂(やまぼうし)における接客, 調理等
すぷりんぐ	9	パン製造, 手工芸, タオル印刷等
パン工房いそっぷ	9	パン・備蓄パン製造, 創作活動等
ステップアップ (他法人事業所)	1	就労に向けた作業訓練
合計	32	

## 5 主な行事

余暇支援においては、選択肢を増やすことで、希望するメニューに参加できるよう支援した。実施した行事等は次のとおりである。

4月	お花見会
5月	春の一時帰省, なかやま山荘宿泊, 障害者スポーツ大会, ふるさと訪問
6月	ボウリング外出, 温泉外出
7月	野球(楽天)観戦, くりこま山車まつり, 温泉外出, ホーム交流会(バーベキュー)
8月	夏の一時的帰省, なかやま山荘宿泊, つきだて七夕祭り, ふるさと訪問, 松風会夏祭り

9月	とっておきの音楽祭 IN くりはら, ホーム交流会 (バーベキュー)
10月	ふれあいまつり, なごみの里サポートセンター祭り, 下沢辺地区芋煮会, 荒町地区芋煮会, 障害者スポーツ大会全国大会, 栗駒ハイルゲーム (芋煮会)
11月	花巻温泉一泊旅行, 金成福祉まつり, コンサート外出
12月	大阪方面一泊旅行, 忘年会, 冬の一時帰省, なかやま山荘宿泊
1月	新年会, ふるさと訪問
2月	温泉外出, 昼食外出
3月	温泉外出, 昼食外出

## 6 地域における関わり

- (1) 障害者スポーツ県大会において, 17名がフライングディスクに出場し, 結果9名の方がメダルを受賞した。また, そのうちの1名は, 全国障害者スポーツ大会でも見事に優勝を果たした。その功績を認められ, 栗原市長より「輝く日本一くりはら大賞」を昨年に引き続き顕彰されたが, 2年連続での受賞は, 法人のみならず地域にとっても勇気と感動を与える明るい話題となった。
- (2) 金成地区において, 初めて地区住民の避難訓練に参加することができ, 地域における障害者理解に繋がった。地域住民との季節行事, 地区自治会活動に参加するなど, 地域との交流が図られた。

## 7 会 議

次により会議を開催し, 事業運営上の課題や利用者の対応等に関して調整を図った。

会 議 名 称	内 容	開催数 (回)
職員会議	グループホーム全体の支援体制等に関する事	12
個別支援会議	利用者の個別支援計画に関係すること	6
世話人月例会議	各グループホーム住居における課題共有等	6

## 8 防災訓練等の実施状況

非常災害に備えた体制を整備するため, 防災訓練を実施した。また, 消防法等関係及び消防計画に基づく安全点検等を定期的に行った。

- |               |      |
|---------------|------|
| ① 防災訓練        | 6回/年 |
| ② 通信訓練        | 6回/年 |
| ③ 消防設備点検 (業者) | 2回/年 |
| ④ 消防設備点検 (自主) | 6回/年 |

## 障害福祉サービス事業所（多機能型）パン工房いそっぷ

### 1 事業所概要

(1) 所在地 栗原市一迫柳目字曾根要害 24 番地

(2) 実施事業・定員等 (平成 28 年 3 月末現在)

実施事業	利用定員 (人)	現 員 (人)
生活介護	20	14
就労継続支援 B 型	20	19

### 2 利用者状況

(1) 年齢の状況 (単位：人)

区 分	～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70～歳	合計	平均年齢 (歳)
生活介護	0	2	3	1	3	4	1	14	50.5
就労継続支援 B 型	1	7	5	4	2	0	0	19	34

(2) 障害支援区分 (単位：人)

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計	平均区分
生活介護	0	2	8	2	1	1	14	3.4

※就労継続支援 B 型については、障害支援区分認定を要さないため掲載しない。

### 3 重点的な取り組み

(1) 利用率の向上

日頃の支援においては、利用者個々のニーズを認めながら、それぞれの長所を伸ばせるよう心掛けることで、利用者の活動意欲の向上に努めた。また、外出や休日等の行事を実施し、利用者の余暇の充実とリフレッシュを図ることで、定員に満たないながらも利用率の維持に繋がった。

(2) 職員育成

虐待防止や苦情解決に係る研修、利用者の工賃向上を目指すためのセミナー等に積極的に参加し、職員の支援技術や知識向上に努めた。また、一昨年度より継続的に実施している食品安全コンサルティングは、安全な食品を提供していくための知識と責任の向上を図る場となっているほか、根拠に基づく仕組みや考え方は、食品安全チームを通じて他の業務にも好影響をもたらしている。

(3) 一迫グループホームの創設・運営準備

一迫グループホーム検討委員会と連携し、一迫地区におけるグループホームの創設と運営の準備を進めてきた。地域に住む障害を持った方々の拠点事業所となるための第一歩として、働く場（日中活動サービス）と暮らしの場（グループホーム）を一体的に運営する仕組みを検討した。

#### (4) ニーズに合ったサービス体制の検討

地域における障害者の就労ニーズや高齢利用者に対する支援の現状を踏まえ、多機能型事業所として定員バランスの見直しを検討したが、利用者の障害支援区分と職員体制の関係等から、この課題については次年度へ持ち越す結果となった。また、利用者の事故等を受け、毎日の短時間ミーティングを重視し、利用者からの要望や苦情、ヒヤリハット等について適宜に確認しながら、安心・安全なサービスの提供に努めた。

### 4 活動状況

#### (1) 機能訓練・創作活動の状況

機能訓練については、毎日の活動メニューとして体操を継続的に行ったことや、宮城県運動習慣化事業による身体測定結果に基づく理学療法士からの助言指導を随時受けたことで、肥満予防と身体機能の維持を図った。また、ちぎり絵等の手工芸品は、店舗にて景品として配布したことで、利用者の意欲を高め、達成感を味わうことに繋がった。

#### (2) 生産活動

##### ① パン製造販売事業

日々におけるパンの製造販売活動のほか、店舗における企画やイベント出店等を積極的に行うことで、利用者にとって、自分たちの製品が売れる喜びを実感できる機会を提供し、働く意欲に繋がった。

収益については、定期販売先の新規開拓や、くりこま「ゆめ工房」による販売部門の協力、定期的な給食への活用等により、売上の維持に繋がった一方で、集客増員を図るための広報活動に関しては、課題が残った。

##### ② 備蓄用パン製造加工事業

ア 災害備蓄用パンの製造を通じた日々の作業はもとより、食品製造に携わる者として必要な教育訓練を定期的実施し、その結果を力量評価表として管理することで、利用者一人ひとりの能力や状態に合わせた個別支援と就労意欲に繋がった。

イ 前年度、通年の作業確保を目的として備蓄用パンの関連製品である「パウチ入パン」の受託製造に切り替えるため、自所製品である「缶入パン」の製造販売を一時休止し対応した。平成27年5月より自所製品の取扱いを再開したが、約1年間の休止が影響し、加えて一般企業の防災食事業への参入もあり、思うように受注が伸びなかったことが主な赤字原因となっている。営業方針はもとより、事業そのものの見直しも視野に入れながら検討する段階にあり、次年度以降の課題として残った。

ウ 食品安全コンサルティングを年6回の頻度で受けながら、食品安全に関する取り組みを通年で実施した。また、国際規格 ISO22000 に係る維持審査を受け、認証を保持する結果となった。食品安全に関しては、内部システムにより不適

合品をより早い段階で防ぐことができ、食品事故やクレームをゼロにしていることで一定の成果を挙げている。食品の安全性を維持するためには、相応の経費を要するが、これは食品製造、特に長期保存食を扱う障害者の生産活動を守る上では重要なことであり、利用者にとっての教育訓練やモチベーションにも効果がある。

## 5 主な活動

4月	お花見行事（土）
5月	昼食外出（土）、リフレッシュ外出（土）
6月	リフレッシュ外出
7月	バーベキュー大会（土）
8月	こどもの祭典出店（土）、全国GH大会出店、栗原市民まつり（土）、施設見学
9月	リフレッシュ外出、日帰り旅行①（土）
10月	法人ふれあい祭り出店、日帰り旅行②（土）、元気なくりはらっこ大会出店（土）、就労支援セミナー出店、一迫商業高等学校祭出店
11月	家族会合同芋煮会（祝）、金成支援学校祭出店（土）、栗原市健康祭り出店（日）、はーとふるフェア出店（土）
12月	家族会合同忘年会（祝）
1月	リフレッシュ外出、調理体験、昼食外出
2月	昼食会行事（祝）、はーとふるフェア出店、スキンケア&メイク講座受講外出
3月	慰労会・送別会

※土日祝日等の開催は（ ）に記載

## 6 会議

次により会議を開催し、事業運営上の課題や利用者の対応等に関して調整を図った。

会議名称	内容	開催数 (回)
職員会議	所内における課題共有及び解決等に関する事	12
個別支援会議	利用者の個別支援等に関する事	随時
工賃評価会議	力量を踏まえた工賃金額の設定等に関する事	2
食品安全チーム会議	自製品の安全性に係る取組みに関する検討	13

## 7 防災訓練等の実施状況

非常災害に備えた体制を整備するため、防災訓練を実施した。また、消防法等関係及び消防計画に基づく安全点検等を定期的に行った。

- ① 総合訓練 1回/年
- ② 部分訓練 1回/年

- ③ 消防設備点検（業者） 2回/年
- ④ 消防設備点検（自主） 12回/年

## 8 その他

### (1) 外部実習等の受入れ

- ① 金成支援学校現場実習 計2回 延13人
- ② 一迫商業高等学校インターンシップ 計1回 延15人

### (2) 見学等の受入れ

栗原市立一迫小学校（児童20名）ほか 計6団体

### (3) 地域ボランティア

区長・近隣地域住民との合同による防災訓練を行い、災害時における地域連携について協力を呼びかけた。また、訓練に併せて「非常食の試食会」を催し、様々な防災商品に触れながら、事業所としての取組みや自製品（災害備蓄用パン及び菓子パン新商品）の紹介を行い、有意義な地域交流を行った。

## 障害福祉サービス事業所（生活介護）すぷりんぐ

### 1 事業所概要

(1) 所在地 栗原市若柳字川北中町 73-1

(2) 実施事業・定員等 (平成 28 年 3 月末現在)

実施事業	利用定員 (人)	現 員 (人)
生活介護	30	38

### 2 利用者状況

(1) 年齢の状況 (単位：人)

～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳～	合計	平均年齢 (歳)
2	7	8	6	15	38	42.2

(2) 障害支援区分 (単位：人)

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計	平均区分
0	1	26	8	3	0	38	3.3

### 3 重点的な取組み

(1) 利用者のニーズに沿った個別支援計画の作成

運動日、健康体操日、リフレッシュ日、本の読み聞かせ等を計画的に実施することで、利用者ニーズに対する充足を得ることができた。

(2) 食品安全システムに基づく環境改善

現場訪問形式の食品安全コンサルティングにより、食品を安全に扱うために最低限必要となる知識や責任等について改めて共有を図り、喫茶店舗及びパン製造場所における環境改善や意識向上に繋がった。

(3) 職員の育成

「自閉症の対応、危険予知トレーニング、短所を長所に捉えるリフレーミング、喫茶提供の飲物講習」等、職員が日頃触れる機会の多いテーマを題材として内部研修を実施した。また、「職員 1 人当たり 1 回以上の参加」を目標としながら参加した外部研修については、知識の向上と意識改革に大いに繋がるものであった。(研修状況については、「V 資料 35～38 頁」に法人全体として掲載)

(4) 日中一時支援事業の受入れ

通常的生活介護サービスに加え、支援学校の生徒等を対象とする日中一時支援を行った。下校後や長期休暇の際の受入れを積極的に行い、特に希望があった方には入浴支援や喫茶における買い物支援を個別に行う等、部分的な支援サービスとして広く喜ばれた。

(5) 見学・活動体験の場の提供

見学希望者の受入れを積極的に行いながら当所の取組みについて紹介してきた。一方、体験利用希望者の受入れについては、責任性や職員体制等の観点から課題を残す結果となった。

4 活動状況

(1) パン喫茶活動

パンについては、毎月5～6品目の商品リニューアルを行い、常に目新しい商品が店頭に並ぶ様子は来店者に好評であった。また、サンクスフェアの定着と市内4保育所へのおやつ納品(月10回程度)により、売上の増収を図ることができた。

10月から行った「パン作り無料体験」では、実施回数10回、延べ120名の体験者を受入れることができ、地域貢献に繋がった。

(2) タオル印刷活動

積極的な営業活動により、近隣ホテル等からのタオル印刷の受注が増え、売上の増収に繋がるとともに、同時に、利用者にとっても活動意欲を高める良い機会となった。

(3) 受託活動

各種菓子のラベル貼りや箱入れ等の受託作業は、作業工程を細分化することで、無理なく取り組むことができ、障がいの重い方にとっても「働いた」という満足感に繋がるものであった。

(4) さをり織り・手工芸活動

店内や外部販売により、手工芸製品が売れる様子を間近に感じ、利用者の大きな喜びと意欲に繋がった。また、さをり織りは、自分のペースと好みに合わせて行い易いことから、利用者にとって情緒の安定をもたらす、有効な活動となった。

5 主な活動

4月	運動日・健康体操日、お花見外出(一関)、カラオケ外出、リフレッシュ日(昼食外出)
5月	運動日・健康体操日、築館互市販売、サンクスフェア、リフレッシュ日(ぼたん園見学)
6月	運動日・健康体操日、障害者スポーツ大会参加、買物外出(仙台)、一泊旅行(新幹線で宮古の旅)、日帰り旅行(やくらいガーデン)
7月	運動日・健康体操日、リフレッシュ日(紙すき体験)、サンクスフェア、県立循環器・呼吸器病センター健康祭り販売
8月	運動日・健康体操日、ボランティアと子どもの祭典販売、リフレッシュ日(土器作り体験)、栗原市民まつり販売
9月	運動日・健康体操日、サンクスフェア4周年祭、とっておきの音楽祭参加・販売

10月	運動日・健康体操日，かなりの丘ふれあい祭り販売，築館互市販売，元気なくりはらっ子大会販売，県運動習慣化支援事業身体機能評価，なごみの里まつり販売，就労セミナー販売
11月	運動日・健康体操日，栗原市健康まつり販売，ダンス交流会，わくわく交流フェスティバル，金成支援学校祭販売，サンクスフェア，リフレッシュ日（豚汁・焼き芋作り）
12月	運動日・健康体操日，家族会合同忘年会
1月	運動日・健康体操日，サンクスフェア，リフレッシュ日（成人祝い会）
2月	運動日・健康体操日，リフレッシュ日（昼食外出）
3月	運動日健康体操日，ふれあいのつどい参加，サンクスフェア，リフレッシュ日（ランチバイキング・プラ版作り），くりはらマルシェ販売

## 6 会議

次により会議を開催し，事業運営上の課題や利用者の対応等に関して調整を図った。

会議名称	内容	開催数(回)
職員会議	所内における課題共有及び解決等に関すること 利用者に係る課題対応等に関すること	12
個別支援会議	個別支援計画に係る評価等に関すること	2
工賃評価会議	工賃金額の評価・設定等に関すること	2

## 7 防災訓練等の実施状況

非常災害に備えた体制を整備するため，防災訓練を実施した。また，消防法等関係及び消防計画に基づく安全点検等を定期的に行った。

- |              |       |
|--------------|-------|
| ① 総合訓練       | 1回/年  |
| ② 部分訓練       | 1回/年  |
| ③ 防災設備点検（業者） | 2回/年  |
| ④ 防災設備点検（自主） | 12回/年 |

## 8 その他

### (1) 外部実習等の受入れ

- |            |                      |
|------------|----------------------|
| ① 支援学校現場実習 | 6名（金成支援学校4名，迫支援学校2名） |
| ② 職場体験実習   | 3名（若柳中学校）            |

### (2) 地域ボランティア

- |              |       |
|--------------|-------|
| ① 健康体操ボランティア | 12回/年 |
| ② 本読みボランティア  | 12回/年 |
| ③ 活動ボランティア   | 48回/年 |
| ④ 縫製ボランティア   | 随時/年  |

## 障害福祉サービス事業所（生活介護） くりこま「ゆめ工房」

### 1 事業所概要

(1) 所在地 栗原市栗駒岩ヶ崎土川 10-5

(2) 実施事業・定員等 (平成 28 年 3 月末現在)

実施事業	利用定員 (人)	現 員 (人)
生活介護	20	20

### 2 利用者状況

(1) 年齢の状況 (単位：人)

～19 歳	20～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50 歳～	合計	平均年齢 (歳)
0	6	4	2	8	20	40.2

(2) 障害支援区分 (単位：人)

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計	平均区分
0	2	4	9	5	0	20	3.8

### 3 重点的な取り組み

(1) 個別活動メニューと場所の設定

ケース検討会議での検討を重ねることで、利用者一人ひとりがいきいきと活動できるメニューを提供することができた。しかし、個別化した日課を取り入れるまでは至らず、今後の検討課題として残った。

(2) エンパワメントを引き出す

行事への参加、外出場所や食事の選択等を通して、利用者一人ひとりが「選ぶ」「伝える」ということに自信が持てるようになった。日常生活の場面においても、その力を十分に発揮できるよう今後も継続的な支援が必要である。

(3) 職員の専門性の向上

P D C A サイクルを活用したケース検討会議（毎月 2～3 名）を実施することにより、職員に「気づき」や「なぜ」という疑問が生まれ、利用者一人ひとりの支援を深く考えるようになった。また、実務経験等に応じた研修を受講したことで、職員のスキルアップを図ることができ専門性の向上に繋がった。

### 4 活動状況

(1) 受託事業

トロミ剤のリパックは、昨年並みの出荷量であったが、利用者全員が取り組める作業として満足度は高かった。また、新規作業としての「ゴマ」(4 種類)のリパックを開始したが、袋が小さく作業に携われる利用者が限られる中、ステップアップしたいと考えている利用者にとっては、効果的な作業となった。

## (2) パン販売事業

パン工房いそっふ並びにすぷりんぐと提携し、両事業所で製造するパンの買取り販売を行っているが、新規販売先として、市内 4 事業所の開拓を行い、売上増収と利用者の販売意欲の向上に成果があった。また、販売先でかけられる「ありがとう」「ご苦労様」の声は、利用者の達成感や励みに繋がった。

## (3) 手工芸事業

新規販売品として壁掛けカレンダーとピンチを制作した。これらの手工芸品は外部販売や新規販売先、年末の関係機関等へのあいさつの際に粗品として活用し好評であった。

## 5 主な活動

4月	お花見会
5月	レクダンス, 誕生会外出 (カラオケ&ランチ)
6月	障害者スポーツ大会参加, リフレッシュ旅行 (オーヴォ鑑賞, アンパンマンミュージアム見学)
7月	誕生会外出 (買物&ランチ), リフレッシュ旅行 (日帰り温泉)
8月	誕生会外出 (日帰り温泉&カラオケ)
9月	誕生会外出 (感覚ミュージアム&ランチ), とっておきの音楽祭見学・販売
10月	ふれあいまつり (法人主催), 事業部合同レクリエーション大会 県運動習慣化支援事業身体機能評価
11月	誕生会外出 (石ノ森章太郎ふるさと記念館見学) (買物&ランチ), はなやままるごとフェスティバル, ダンス交流会
12月	家族会合同忘年会「お疲れさまでした」会
1月	誕生会外出 (伊豆沼白鳥見学)
2月	みんなでパテシエ! (パン作り), 商家のひなまつり見学, フラダンス交流会
3月	誕生会外出 (カラオケ&マクドナルド) (買物&はま寿司)

※誕生会外出については、本人の希望により随時実施

※リフレッシュ旅行については、3ルートより選択し実施

## 6 会議

次により会議を開催し、事業運営上の課題や利用者の対応等に関して調整を図った。

会議名称	内容	開催数 (回)
職員会議	所内における課題共有及び解決等に関すること 利用者に係る課題等の検討・対応等に関すること	12
個別支援会議	個別支援計画に係る評価等に関すること	10
工賃評価会議	工賃金額の評価・設定等に関すること	2

## 7 防災訓練等の実施状況

非常災害に備えた体制を整備するため、防災訓練を実施した。また、消防法等関係及び消防計画に基づく安全点検等を定期的に行った。

- |              |       |
|--------------|-------|
| ① 総合訓練       | 1回/年  |
| ② 部分訓練       | 11回/年 |
| ③ 防災設備点検（業者） | 2回/年  |
| ④ 防火設備点検（自主） | 12回/年 |

## 8 その他

### (1) 外部実習等の受入れ

- |                |           |
|----------------|-----------|
| ① 金成支援学校現場実習   | 2回（延人数3名） |
| ② 県立視覚支援学校現場実習 | 1回（延人数1名） |

### (2) 地域ボランティア

- |            |      |
|------------|------|
| ① レクダンス    | 2回/年 |
| ② フラダンス交流会 | 1回/年 |

## 障害者相談支援センターあらいぶ

### 1 事業所概要

(1) 所在地 栗原市築館伊豆1丁目1-12

(2) 実施事業

- ① 指定特定相談支援事業
- ② 障害児相談支援事業

(3) 委託事業

- ① 障害者相談支援事業（栗原市）
- ② 障害児等療育支援事業（宮城県）
- ③ 障害支援区分認定調査（栗原市）

(4) 利用する障害者数

（平成28年3月末現在）

区分	実人数 (人)	知的障害 (人)	身体障害 (人)	重症心身障害 (人)	精神障害 (人)	発達障害 (人)	その他 (人)
障害者	260	221	22	1	8	4	4
障害児	49	23	7	2	1	13	3
計	309	244	29	3	9	17	7

### 2 重点的な取組み

(1) 利用者主体の相談及び対応

利用者主体の相談を念頭に置きながら懇切丁寧な対応を行ったことで、細かな利用者ニーズに対応することができ、相談件数の増加に繋がった。

(2) 職員の資質向上

地域における多様なニーズに対応するため、より専門的な研修に積極的に参加することで、相談支援専門員の資質の底上げに努めた。また、このスキルアップにより、効率的な相談処理が可能となり、より多くの相談に対応することができた。

(3) サービス等利用計画の充足

障害福祉サービス等を利用する際の基礎となるサービス等利用計画の作成において、栗原市内における障害者等の約32%に当たる181名分の作成を行った。これにより、栗原市のサービス等利用計画作成の達成率はほぼ100%となり、充足に大きく貢献した。

### 3 指定特定相談支援

(1) 対象者数

（単位：人）

市町村	栗原市	石巻市	名取市	気仙沼市	加美町	美里町	松島町	色麻町	涌谷町	合計
人数	172	3	1	5	5	3	1	1	4	195

(2) 作成数 (単位：人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
プラン	14	5	7	22	7	12	7	13	8	5	3	21	124
モニタリング	32	38	33	33	56	35	22	26	20	27	38	38	398

4 障害児相談支援

(1) 対象者数 栗原市 9名

(2) 作成数 (単位：件)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
プラン	0	0	0	0	4	4	4	1	2	4	3	2	24
モニタリング	0	0	0	0	4	0	2	0	1	0	1	0	8

5 障害者相談支援事業（栗原市）

事業区分	実施回数（回）	実人数または回数
福祉サービスの利用援助に関すること	2,466	254人
社会資源を活用するための支援に関すること	507	107人
社会生活力を高めるための支援に関すること	163	83人
当事者活動等の支援に関すること	6	22人
障害者の権利の擁護に関すること	33	8人
専門機関の紹介に関すること	31	18名
相談支援事業の運営に関すること	・ 担当者会議	6回
障害者総合支援法で定める協議会の運営に関すること	・ 運営会議	6回
	・ 全体会	2回
	・ 計画相談部会	6回
その他、障害者総合支援法に定められている相談業務に関すること	・ ミュージック・ケア	3回
	・ 研修会等開催	3回
普及啓発	・ 広報紙発行	8回

6 障害児等療育支援事業（宮城県）

事業区分	実施内容	今年度実績	
		実施回数（回）	実人数（人）
療育指導	・ 訪問相談	234	55
専門的療育相談指導	・ 外来相談	72	36
	うち自閉症療育相談	5	5

障害児の通う保育所や	・訪問相談	51	15
障害児通園施設等の職員 の療育技術の指導	・支援者のための研修会 ① 親子パン作り体験教室 ② 支援者のメンタルヘルス ③ 「嚥下について学ぼう！ ～摂食性嚥下機能障害とそ の予防・取り組みについて」	3	74

#### 7 障害支援区分認定調査状況（栗原市）

栗原市より委託を受け障害支援区分に係る認定調査を行ったが、栗原市の配置上、保健師による調査で対応できる件数であったため、年間を通じての認定調査には至らなかった。

○ 認定調査の実施 3件/年